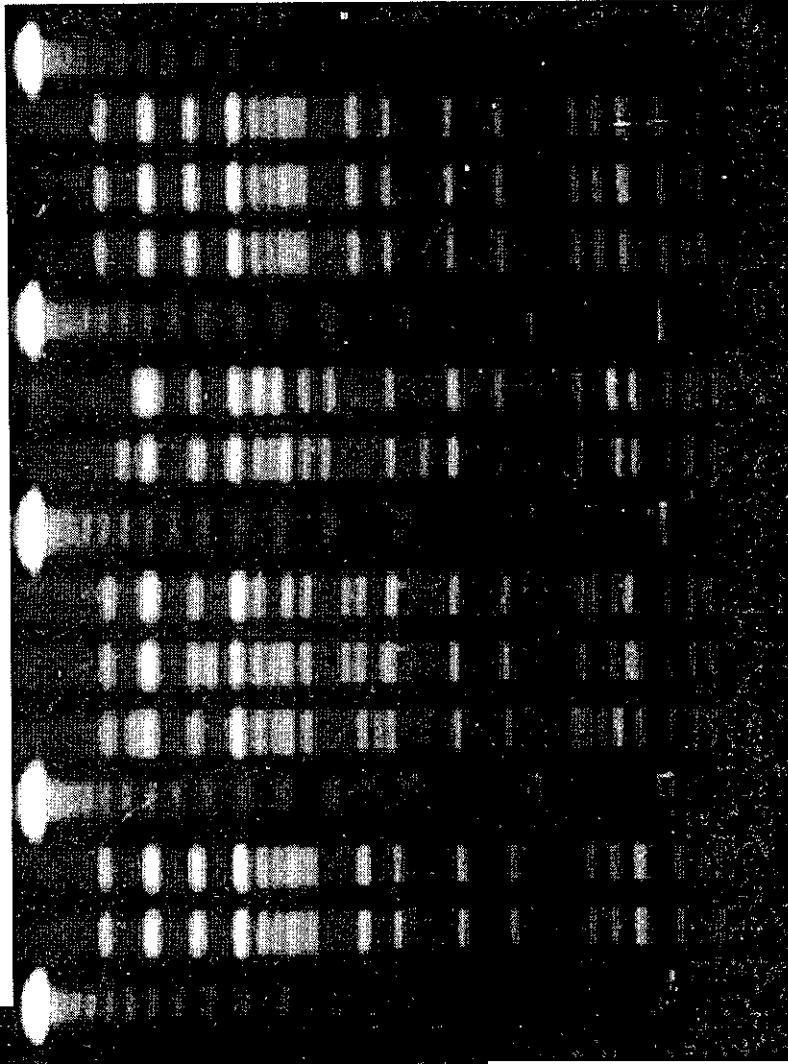


平成12年度



平成13年度

図12. 平成12年度と13年度の比較

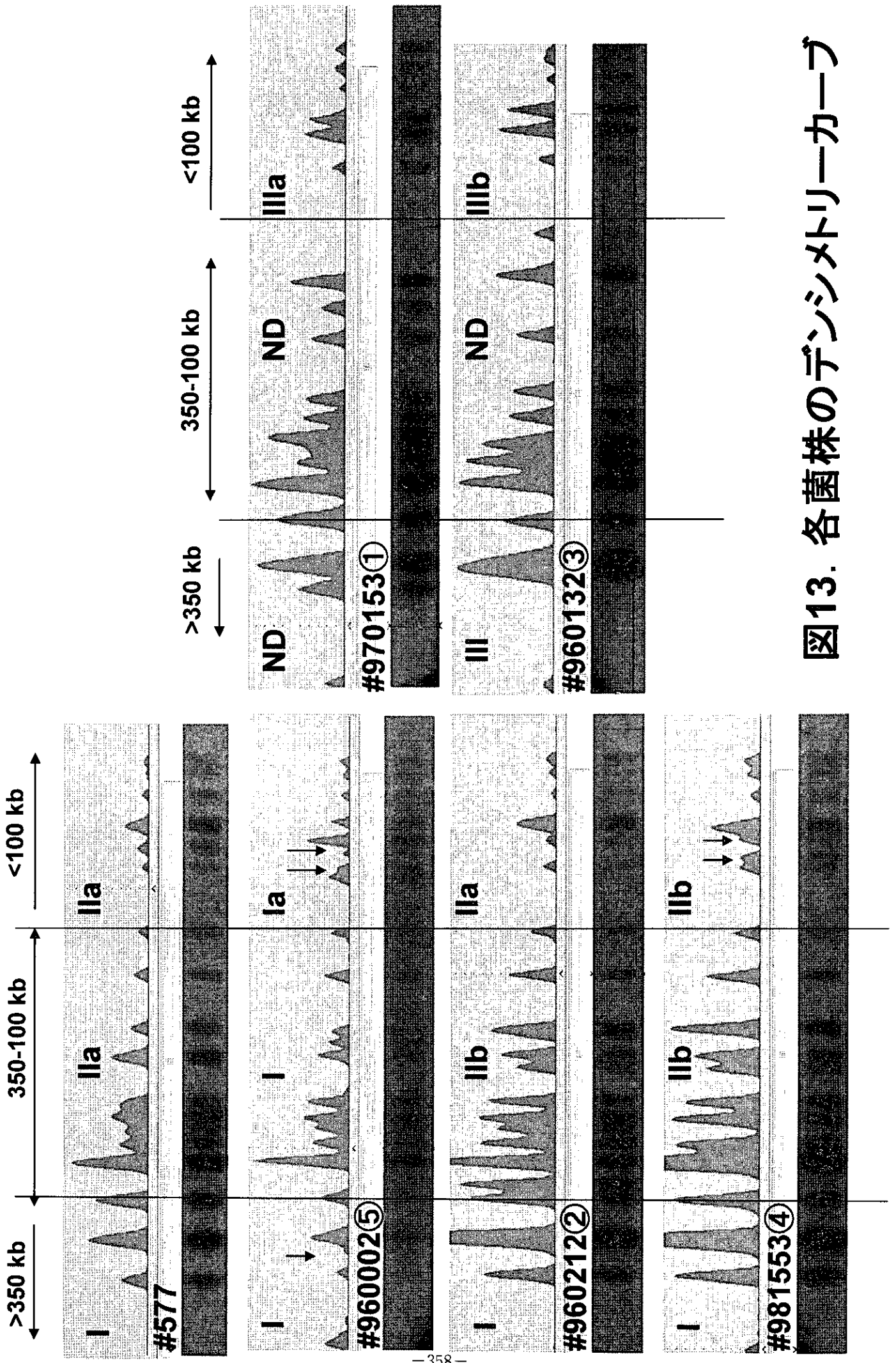


図13. 各菌株のデンシトリーカーブ

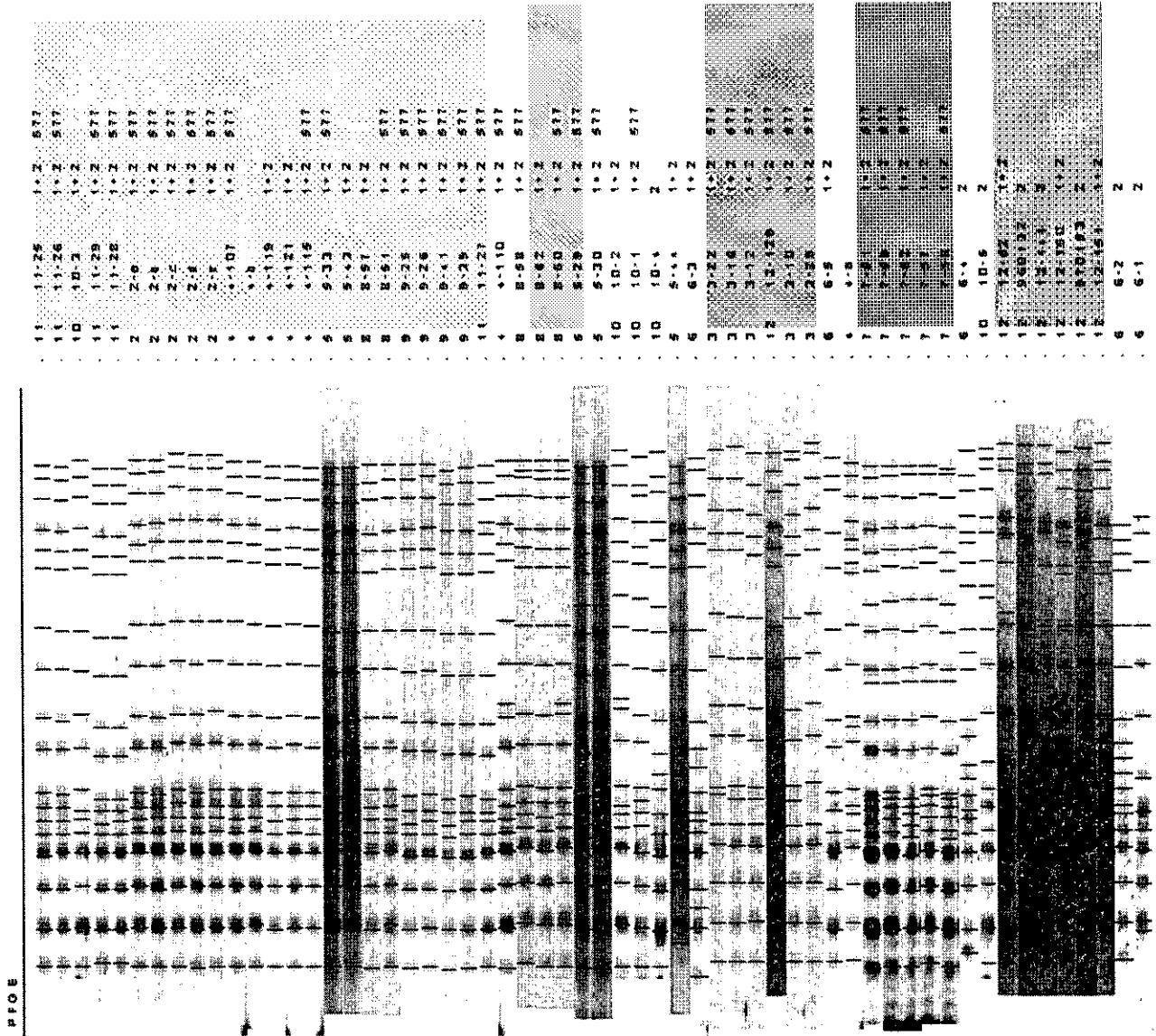
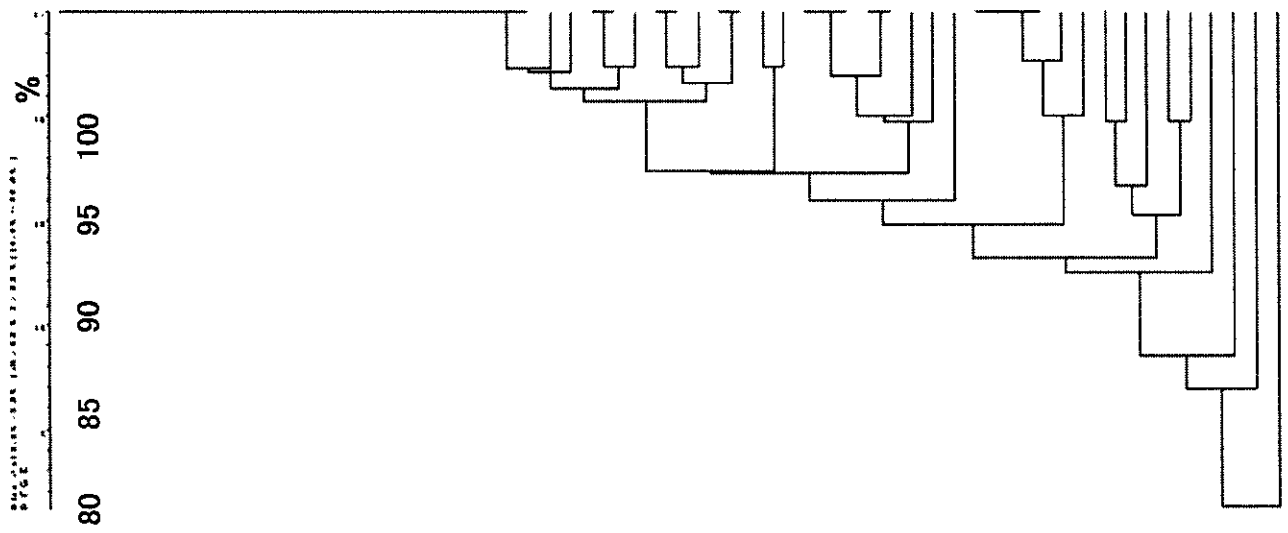


図14. #577関連株の全機関で実施したPFGE 泳動像のデンドログラム

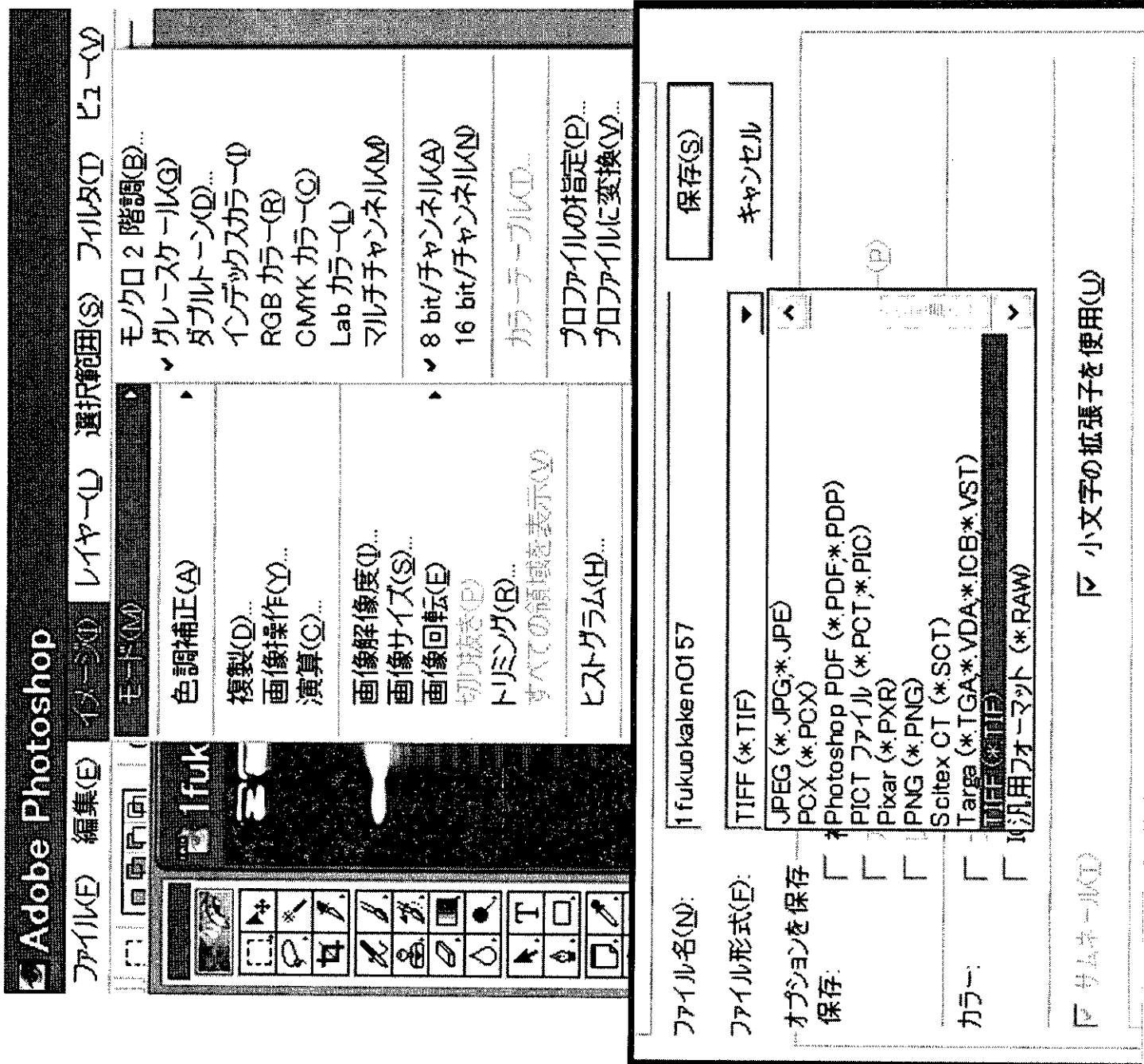


図15

# Finger printing II (GelComper II) で解析する場合

## 画像のデジタル保存

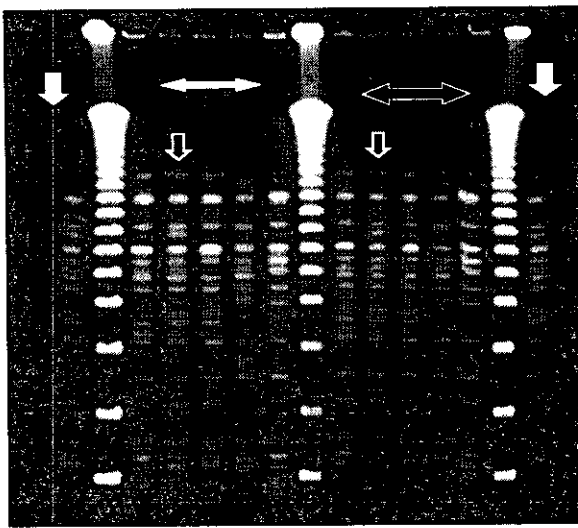
グレースケール

8 bit

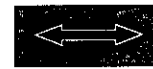
TIFFファイル

圧縮なし

小文字の拡張子を使用(L)



従来法



迅速法



福岡県作成 no.2 プラグ



各地研作成 no.2 プラグ

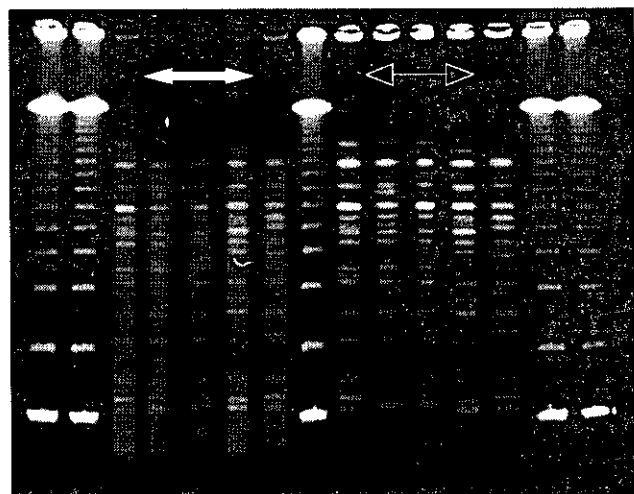
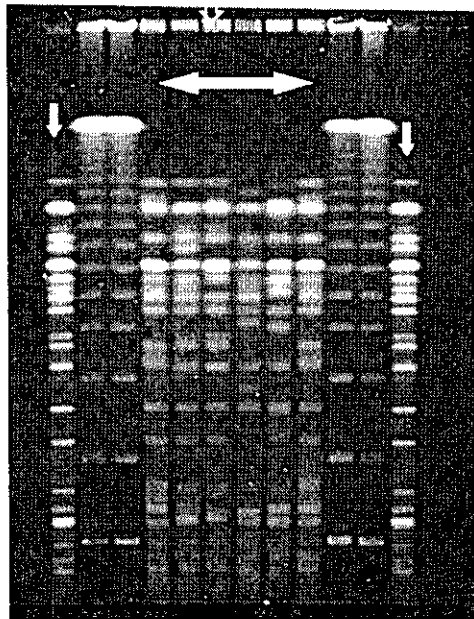
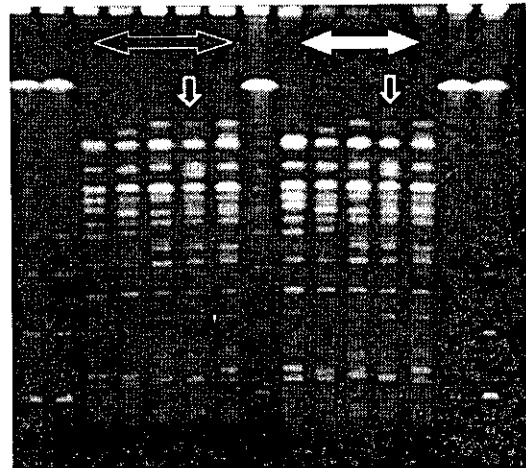
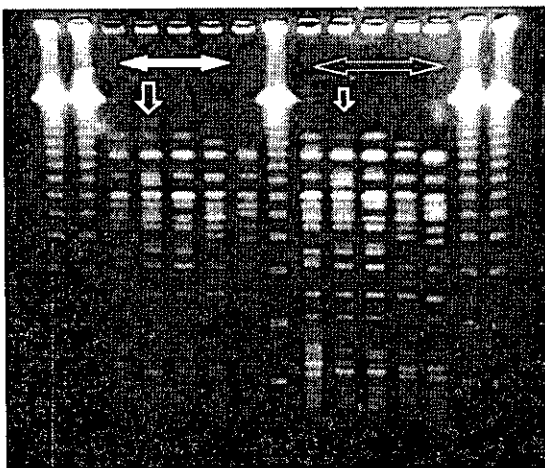


図 16. 平成 14 年度の泳動像の一部

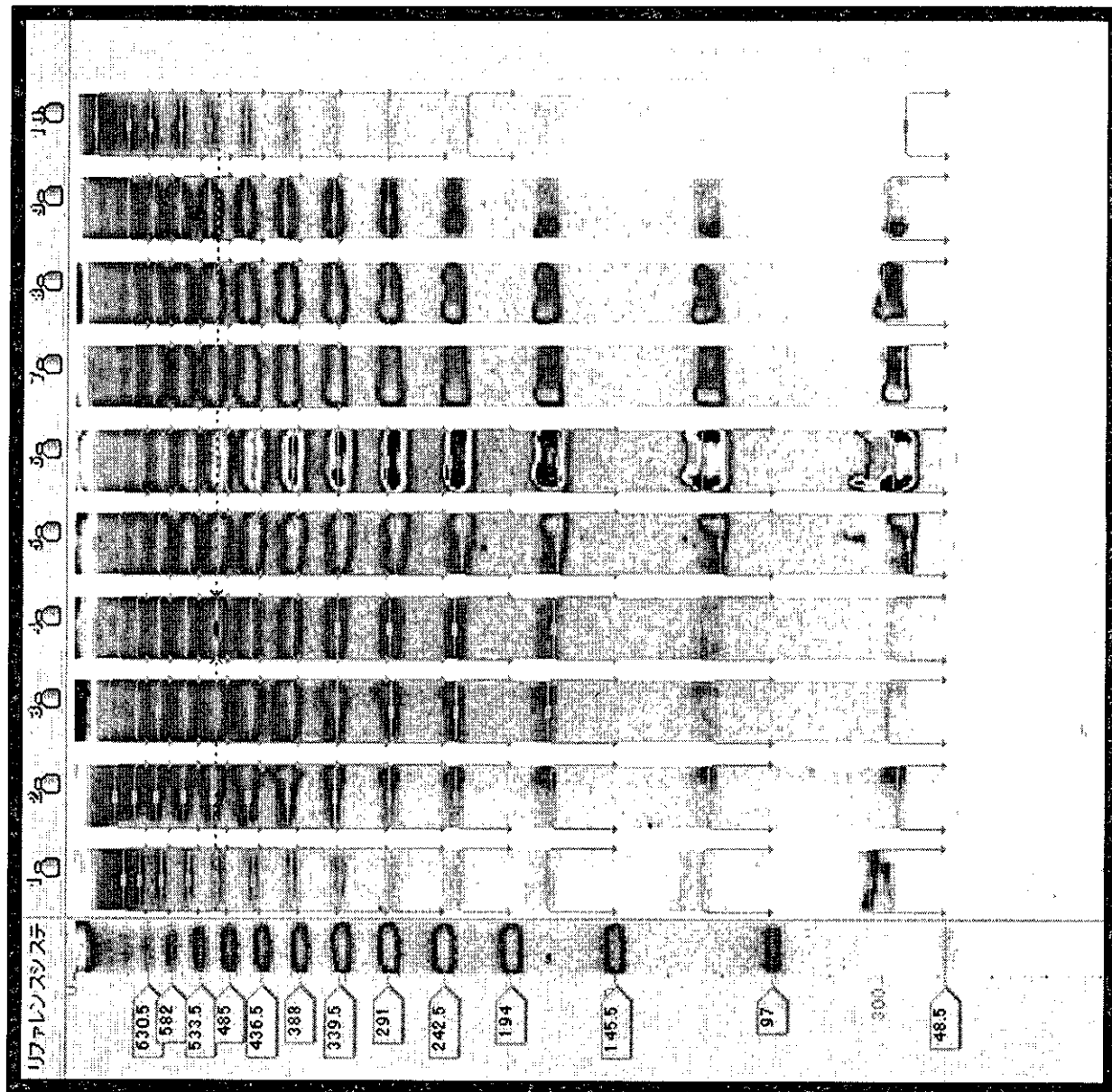
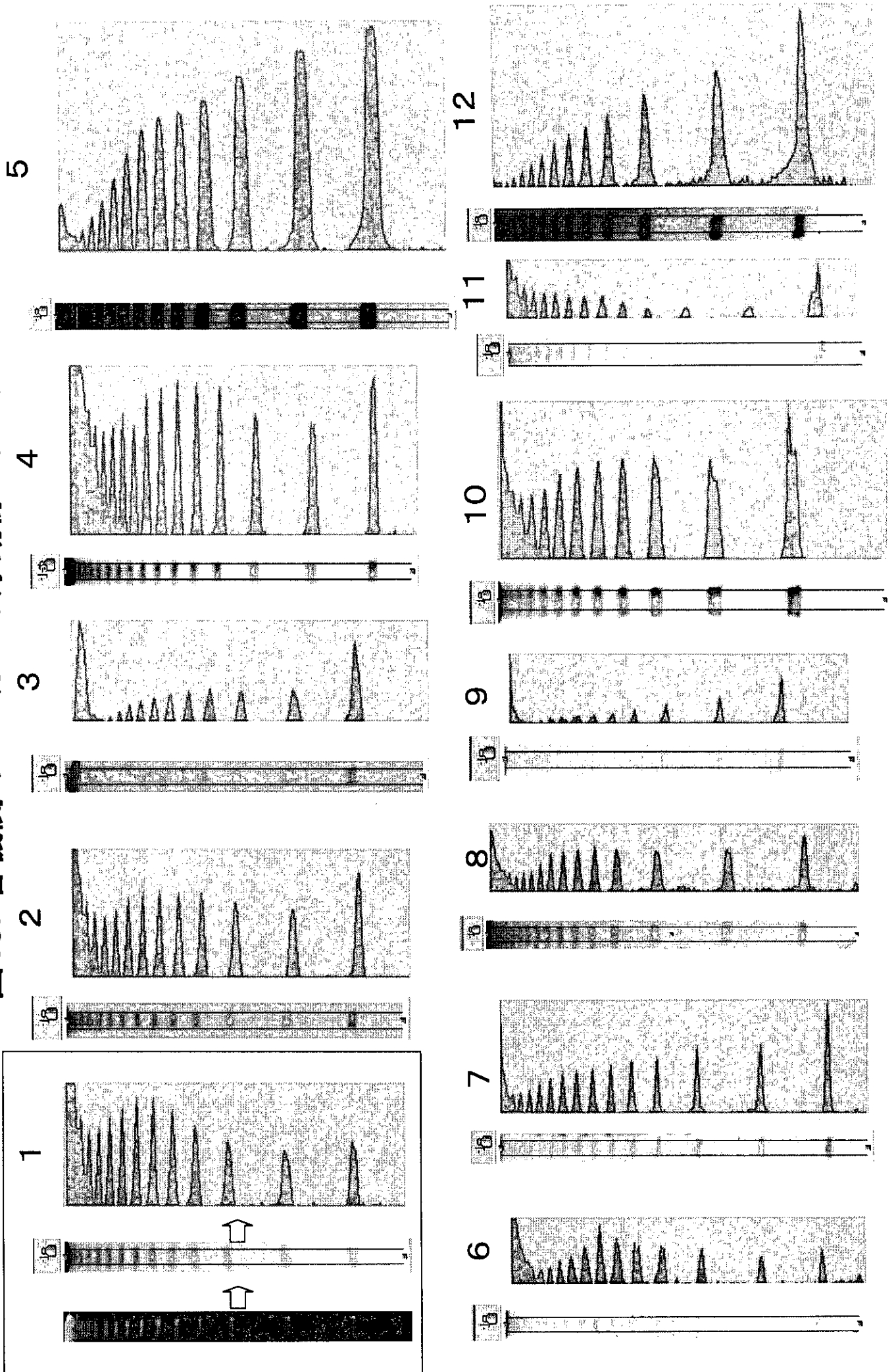


図17. レファレンスによるゲルの標準化

図18. 各機関のマーカ-の泳動像とデジタルカーブ(平成13年度)



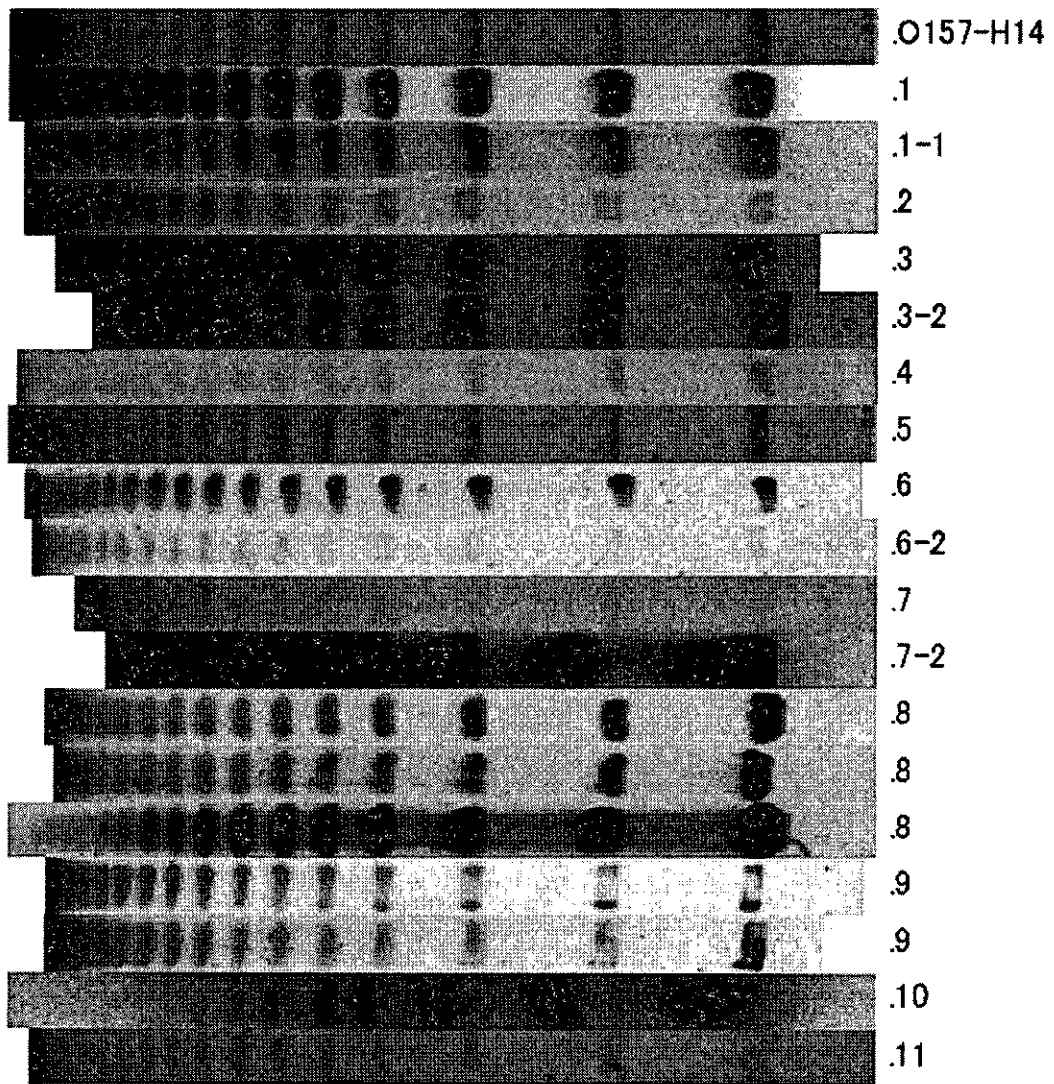
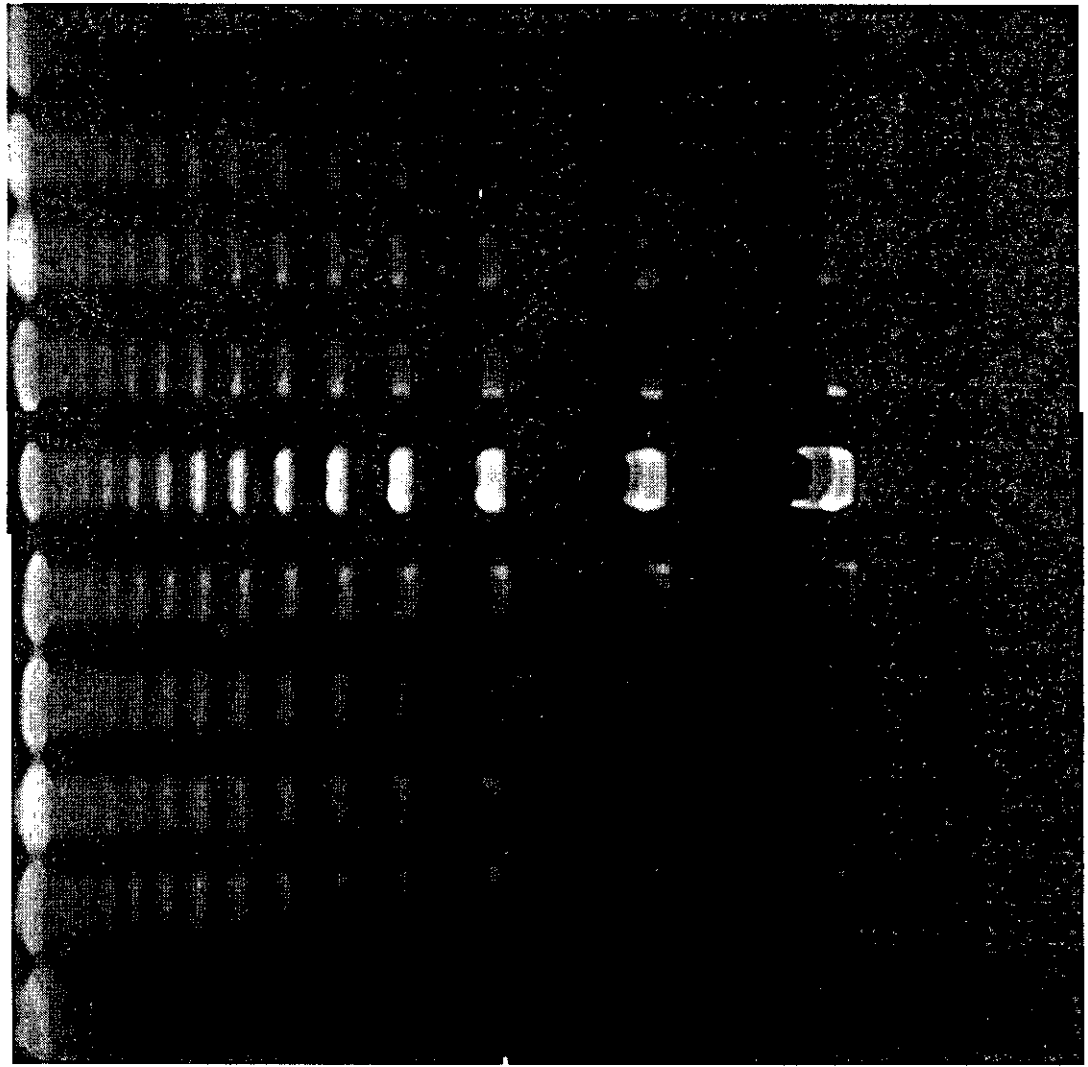


図 19 各機関の PFGE に用いたレーダー（BIO-RAD 製）の泳動像



図20

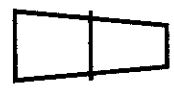
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



DNA Size standard

λ ladder/バンドの改善

1. 5.0 × 5mm, 処理なし
2. 5.0 × 5mm, 2.5 分
3. 5.0 × 5mm, 5.0 分
4. 2.5 × 5mm, 2.5 分
5. 2.5 × 5mm, 5.0 分
6. 2.5 × 5mm, 5.0 分
7. 2.5 × 5mm, 2.5 分
8. 2.5 × 5mm, 5.0 分
9. 5.0 × 5mm, 2.5 分
10. 5.0 × 5mm, 処理なし



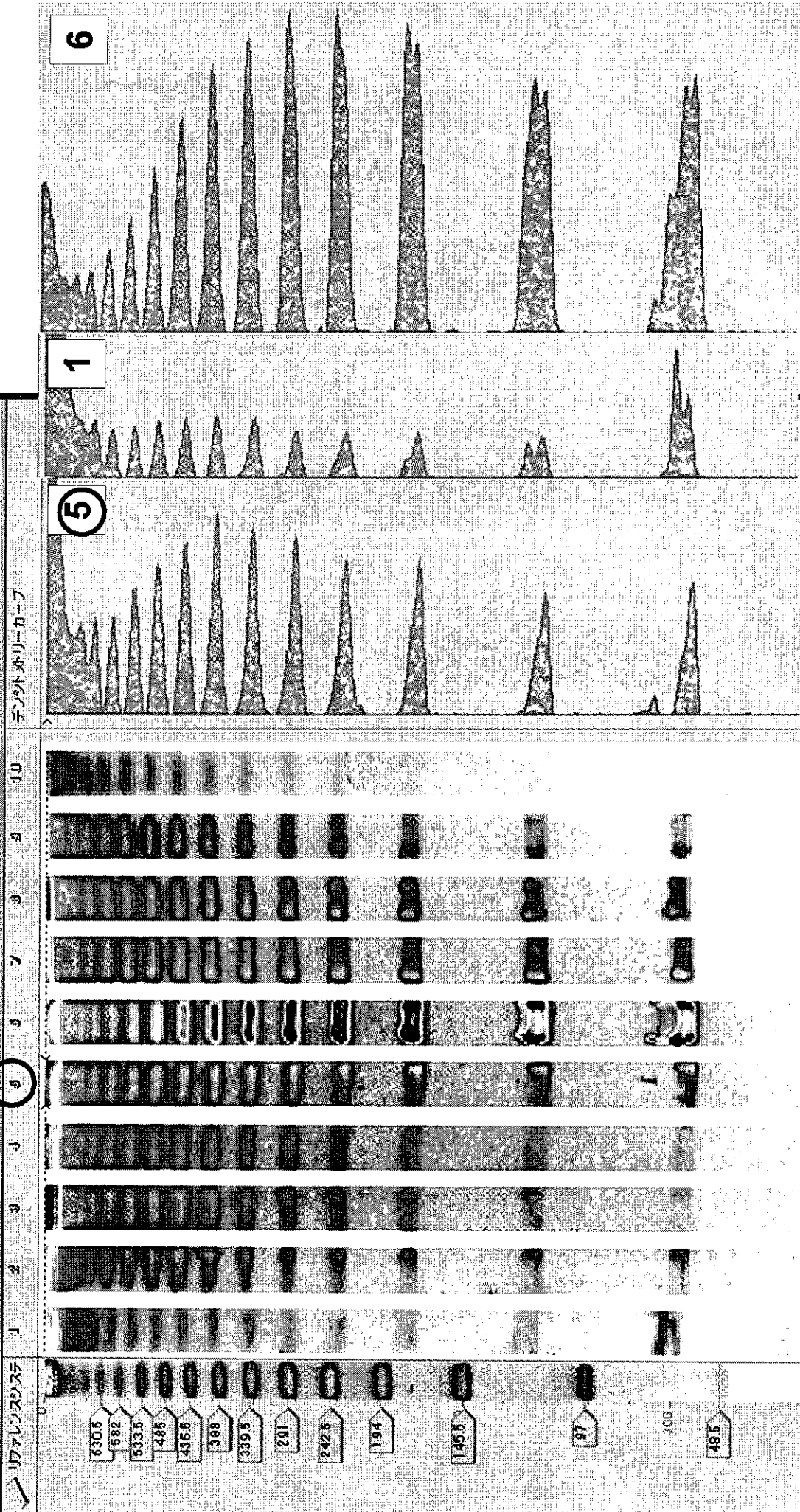
TBE bufferで洗浄後  
TBE bufferに入れ45°C保温

ファイル 編集 リアレンス 標準化



プログラム C:\Program Files\GelCompar II\data\horikawa  
ファイル名: Horikawa0157

図21



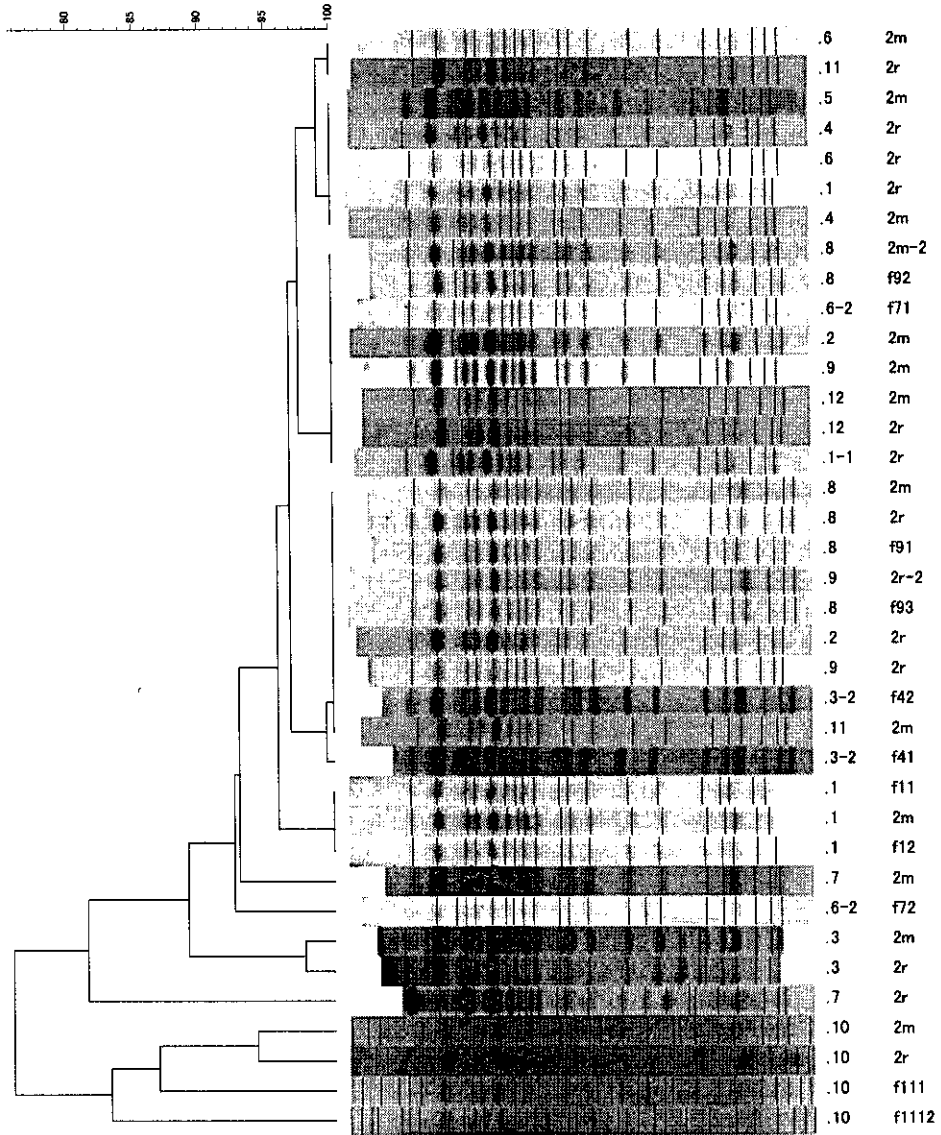


図 22. 菌株 no.2 を各機関作成プラグと福岡県で作成・送付したプラグの各機関で泳動した DNA パターンの解析結果

m : 統一マニュアル法, r : 迅速法, f : 福岡県作成・送付

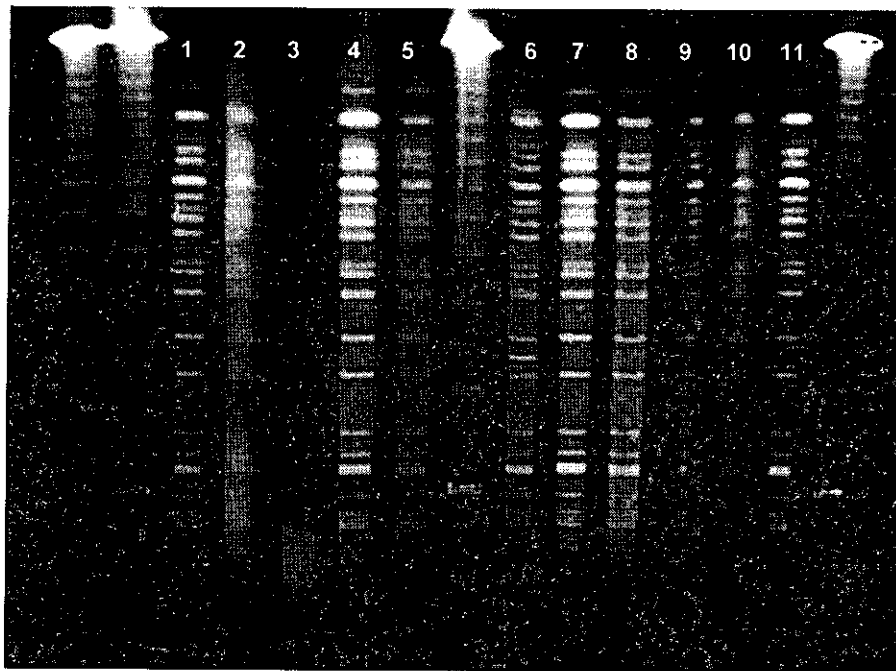


図 23 各機関から送付された菌株 no.2 プラグの同一ゲル泳動像

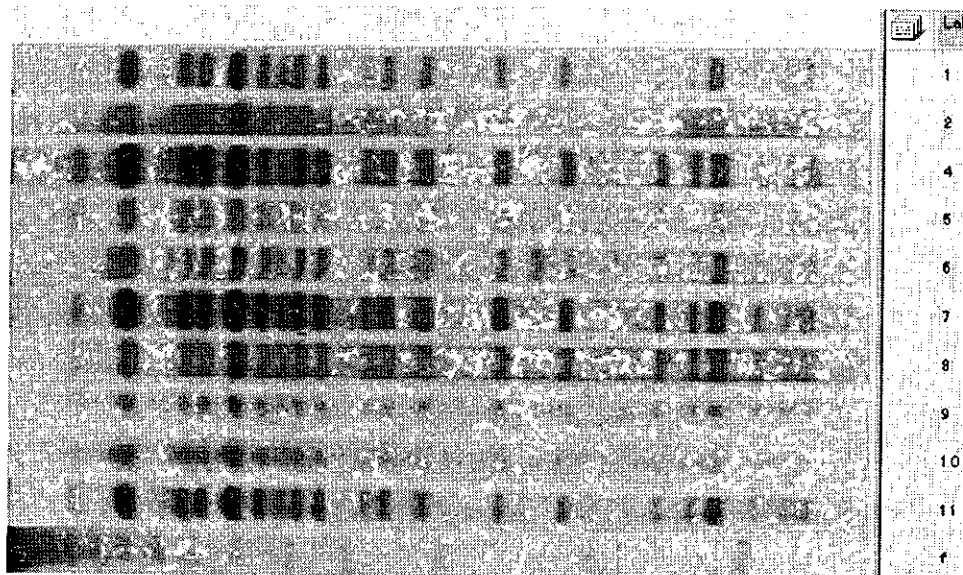


図 24 各機関から送付された菌株 no.2 プラグの同一ゲル泳動像

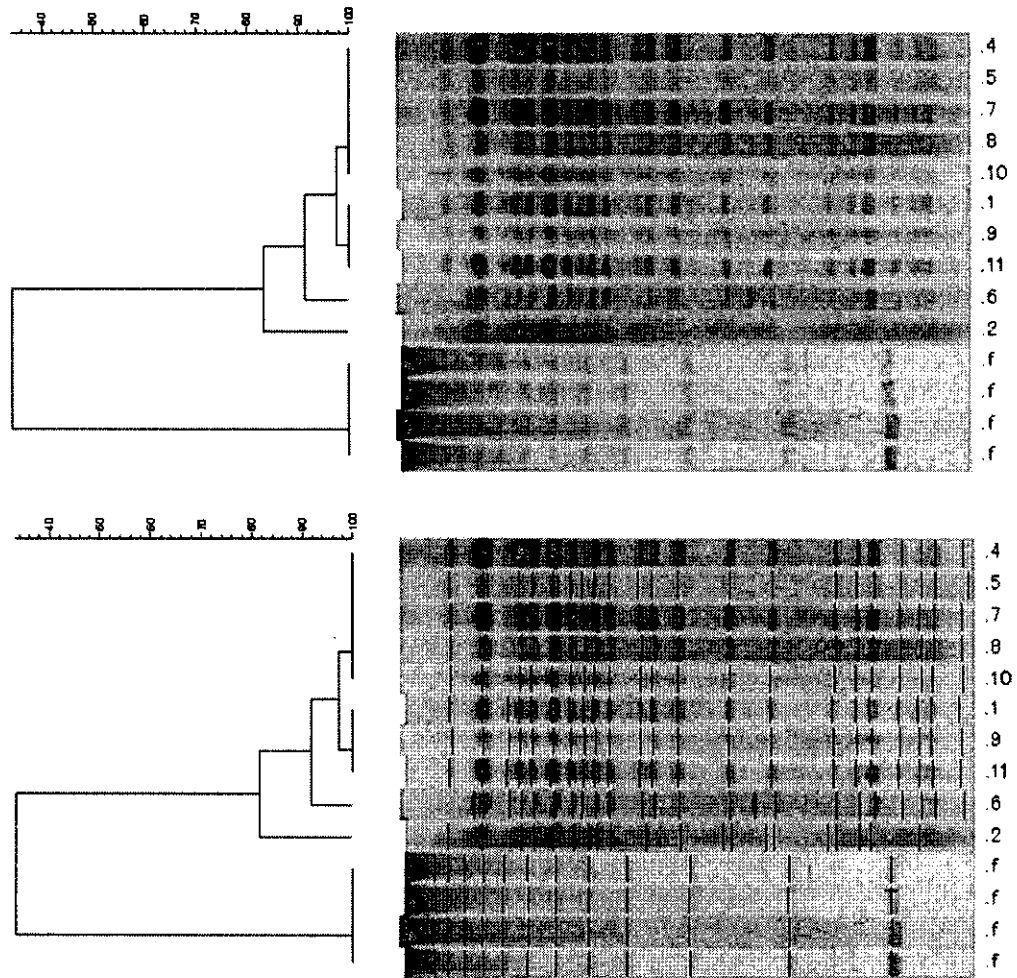


図 25 各機関で作成した菌株 no.2 のプラグを同時に泳動した画像の解析結果  
(写真下は写真上の画像から自動認識されたバンドを示す)

## 図26. 今後整備すべき要件

1. 分離菌株の確保に関する公的文書化
2. 各菌種におけるPFGE 条件の標準化  
特に使用制限酵素や泳動条件など
3. 各菌種別に全国共通の内部標準株の指定
4. 解析に耐えうるPFGE マーカーの安定供給
5. PFGE パターン解釈の確認先の確保
6. 各施設におけるPFGE 技術の継承

## 図27. PFGE における結果の解釈と感染症事例の解明

### PFGEパターンの解釈に必要な要件

1. PFGE パターンが一致した場合どのくらいの確立  
で同一由来といえるのか？
2. PFGE パターンが一致しない場合バンド数が何本  
違ったら異なる起原といえるのか？  
→バンドの増減の解釈方法の理解